

包装材における環境配慮

環境適合包装を実現するため
包装材の改善を進めています。

環境適合包装を実現するための方針

カシオが目指す「環境適合包装」を実現するため、製品や物流方式に応じた「最適な輸送包装の荷姿」や廃棄される包装材の減量化に取り組みます。

具体的には、包装の構造・形式の開発や製品強度を適正に把握することで包装材の小型・軽量化を図るとともに、再生材の使用とリサイクルの容易化を積極的に進めていきます。

環境適合包装を実現するための組織

カシオ環境保全委員会の中にある包装専門委員会と実行部門で構成されます。

●包装専門委員会

環境行動目標の包装材に関する目標を策定(Plan)、結果を評価(Check)し、見直し(Action)を行います。

●実行部門

開発本部、デバイス事業部、カシオ日立モバイルコミュニケーションズで目標を実施(Do)します。

包装専門委員会 活動方針

【主旨】

持続可能な社会に向けた環境保全活動で重要な位置を占めるのが、包装廃棄物の減量化です。カシオは地球にやさしい包装を作ることが重要であり、企業が取り組むべき社会的責任であると考えます。

【方針】

1. 環境適合包装に向けた環境行動目標の策定と運用・評価
2. 環境適合包装の開発支援と技術の共有化・活用
3. 各国環境包装法規制への対応
4. カシオ包装材総使用量の把握
5. 包装品質ガイドラインの策定

【運用】

包装専門委員会の開催は、四半期毎

【活動内容】

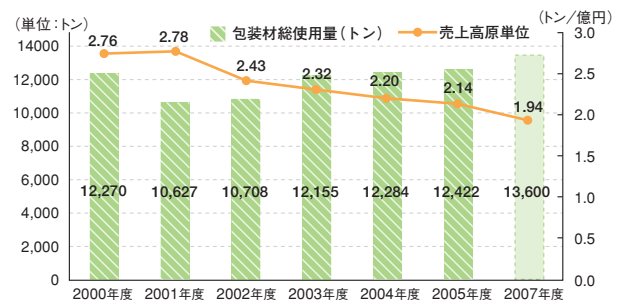
1. 省資源、再生資源の利用：再生紙、非木材紙、再生樹脂の採用
2. 包装材の削減：減量化、小型化
3. 材料の安全性：有害物質含有規制順守
4. リサイクル性：単一素材の利用、廃棄の容易性、包装表示規定の順守

2005年度の活動結果

2000年度から、包装材総使用量のデータベース化を図るとともに、2007年度までに2000年度比で売上高原単位30%削減を目標に活動を展開しています。

2005年度は、売上金額が2004年度比3.8%増に対し包装材総使用量は1.1%増、その結果売上高原単位2.14となり、2004年度比2.1%減となり、2000年度比で22.6%減になりました。

包装材総使用量と売上高原単位の推移



※包装材総使用量の対象となる材料は、紙系、段ボール、発泡スチロール、プラスチック系素材です。

2005年度包装改善活動事例

■ デジタルカメラの包装改善

従来までは、包装箱を国内仕様と海外仕様別々に設計していましたが、今回包装箱を共通化することで、以前に比べて包装材使用量を36%削減、箱容積も15%削減することができました。さらに、共通化に伴う包装材料の発注や包装組立の効率化も図ることができました。



■ ページプリンタの包装箱改善

製品の小型化に伴い、包装においても従来に比べ箱容積で40%削減、付属品包装箱も37%削減しました。また、輸送コンテナへの積載数も78台から162台になり輸送効率を向上させることができました。



今後の取り組み

- 箱の開けやすさ、製品の取り出しやすさ、廃棄処理のしやすさといった「ユニバーサル包装」を実現します。
- 包装形態の多様化から樹脂素材の使用量が増加している販売促進用ディスプレイ包装において、多様な包装形態を共通化させ、樹脂使用量の削減を図っていきます。
- 製造からお客様へお届けするまでの物流工程の効率化・合理化と合わせた最適な包装形態のあるべき姿を追求します。